

| 問 題 |       | 得点率<br>(%) | 問 題 |         | 得点率<br>(%) |
|-----|-------|------------|-----|---------|------------|
| 1   | 問 一   | 39.6       | 2   | 問 一     | 60.7       |
|     | 問 二   | 63.4       |     | 問 二     | 87.9       |
|     | 問 三   | 40.7       |     | 問 三     | 81.2       |
|     | 問 四   | 55.9       |     | 問 四     | 51.3       |
|     | 問 五   | 95.6       |     | 問 五     | 82.9       |
|     | 問 六   | 83.9       |     | 問 六     | 50.0       |
|     | 問 七 A | 98.0       |     | 問 七 I   | 25.2       |
|     | B     | 95.0       |     | II      | 4.7        |
|     | C     | 96.3       |     | III     | 13.8       |
|     | D     | 96.3       |     | IV      | 45.6       |
|     | 問 八 ア | 92.6       |     | V       | 50.7       |
|     | イ     | 90.6       |     | 問 八 (一) | 48.3       |
|     | ウ     | 39.6       |     | (二) I   | 98.7       |
|     | エ     | 43.0       |     | II      | 88.6       |
|     | オ     | 96.6       |     | III     | 98.0       |
|     | 問 九   | 73.8       |     | 問 九     | 63.1       |

合格者最高点 85  
合格者最低点 46

1 出典：戸谷洋志『悪いことはなぜ楽しいのか』

- 問一 3行記述問題です。傍線部(1)より、「復讐」が「どこか甘美な側面も含まれている」ということの理由を説明します。直後に「苦痛と快楽、その両方が含まれている」とあり、この内容が最もよくまとめられているのが第五段落です。そこからまとめ、「軽蔑してきた相手に怒り、復讐しようと欲求するとき、その気になれば復讐できるだろう、具体的にこういう行動をすれば復讐できるだろうと期待し、その過程で快楽を感じるから。」という説明が正解です。「復讐できるだろうと期待すること」→「快楽」、という流れがよく理解できていない答案がやや目立ちました。
- 問二 選択肢問題です。傍線部(2)より、「イワン」は「アレクセイ」より「はるかに傷ついている」かもしれない最もふさわしい理由を1つ選びます。正解はイです。ア「正反対の概念を同時に成り立たせなければならず」、ウ「人間の心理を説明することに成功したが」、エ「アレクセイの心の強さに苦悩し、…」、がそれぞれ誤りです。多くの答案が正解でしたが、アの誤りも多少ありました。
- 問三 3行記述問題です。傍線部(3)より、アリストテレスによる「復讐」についての考えをまとめます。傍線部(3)の内容は「目には目を、歯には歯を」という同害報復では「復讐の限界を正しく示すことはできない」ということなので、「復讐の限界を正しく示す」ためにはどうすることが必要か、ということの説明します。62行目～75行目の内容がそれに当たります。従って「単に同じ行為をやり返すだけでは正しい復讐にはならず、復讐行為自体がお互いにとって同じ価値であるかの調整を図ること」という内容、そしてそれは「比例関係に基づく正義」と言います。これらをまとめれば正解になります。アリストテレスの「復讐」に対する考えですが、傍線箇所に対応した内容を書くことが求められています。そのあとの話題で「貨幣」が出てきますが、ここ（問三）での記述は「貨幣」の前段階、すなわち「比例関係に基づく正義」が中心になります。アリストテレスの考えをまとめた記述になっておらず、減点対象となる答案が散見されました。
- 問四 3行記述問題です。傍線部(4)は「正しい復讐ができない」という問題を解決するためにアリストテレスは「貨幣」をとりあげた、という内容なので、そのことが書かれた98行目～109行目までの内容をまとめて正解となります。すなわち「比例関係において等しい物や事がない場合でも」「すべての人間に対して共通の価値の尺度である貨幣によって復讐行為の価値を金額に換算」「それを相手に請求すれば正義にかなう」といった内容を書けば正解です。問三と同様にアリストテレスの「復讐」に対する考えですが、ここでの記述は傍線部(4)に沿って書くので、「貨幣」が用いられるべきことが中心になりま

す。多くの答案で「貨幣」に言及した記述ができていました。

- 問五 空欄補充の選択肢問題です。□(5)に入れる表現として最もふさわしいものを一つ選びます。直前に「その相手にそれ以上の復讐をすること」とあるので、ア「かえって正義に反することになります。」が入ります。ほぼ全員ができています。
- 問六 選択肢問題です。傍線部(6)では、損害賠償という考え方だけでは復讐心に対する適正な限界を設けることができないと述べられています。そしてその理由は「失われたもののかげがえのなさ」、つまり「子どもに対する残虐な仕打ち」や「人命」(を奪うこと)、それを共通の尺度によって評価することは、そもそも「かがえのなさ」を否定することになるからです。従って正解はウです。ア「適正な限界を冒瀆してしまう」、イ「キリスト教がこの事態を回避することができた」、エ「私たちで見つけ出す必要がある」、がそれぞれ誤りです。ほぼ全員ができています。
- 問七 接続語問題です。選択肢の4つの語が必ず1つずつ対応します。□Aは原因・理由説明の「なぜなら」、□Bは順接の「だから」、□Cは逆接の「しかし」、□Dは仮定の「たとえ」がそれぞれ入ります。ほぼ全員ができています。
- 問八 漢字問題です。ア「意地悪」、イ「達成」、ウ「算段」、エ「収集」、オ「原理」です。楷書で丁寧に書く練習を日頃からしておきましょう。ウ「算段」(工夫すること・お金の都合をつけること・やりくり)、エ「収集」(物を集めること)、の正答率がア、イ、オと較べて低かったのが残念でした。アは「養」、イは「損」、ウは「帰属」、エは「障害物」、オは「等価」です。楷書で丁寧に書く練習を日頃からしておきましょう。よくできていました。
- 問九 内容一致問題です。正解はエです。これは本文 29 行目～32 行目の内容に対応しています。ア「復讐は…せめぎ合っているが、…その時、…『貨幣』が力を発揮する」、イ「…苦痛と快楽の両方が含まれているため、禁じられた心の持ち方だが」、ウ「…比例関係に基づく正義によって果たされなければならないという理由でキリスト教はそれを禁じた」が、それぞれ誤りです。ほとんどの答案が正解でした。

## 2 出典：友井羊『映画化決定』

- 問一 3行記述問題です。傍線部(1)より、「客観的に考えれば、受けない理由はない」にもかかわらず、「ぼく」はなぜ「ハル」からの映画化の依頼を断ったのかをまとめます。5行目に「自分の作品じゃないから」があります。これを受けて8行目～25行目までの内容を書きます。「自分の作品じゃない」と考える理由、すなわち「小学生のときに描いたもの」「『春に君を想う』の存在は必然的に(家を出た)父さんを思い出させる」「今でも『春に君を想う』を超えられていない」「昔の自分に嫉妬している」まで書いていけばよいでしょう。これらの材料を的確にとらえられていない答案が目立ちました。「嫉妬」と書く場合も、単に「嫉妬」ではなく、何に「嫉妬」するのかまで書く必要があります。
- 問二 選択肢問題です。傍線部(2)の「ハル」が「わたしの映画、観たことないよね」と言った理由の説明として最もふさわしいのは、エです。「ハル」は自分の映画作品に自信があるため、映画化の依頼を「断る」というのはおそらく映画を観ていないからだ、一度でも観たら映画化したくなるはずだ、と考えています。アは単なる一般論です。イは文脈がそもそもあっていません。ウは「内容的に相性がよいこと」というのが誤りです。ほとんどの答案が正解でした。
- 問三 選択肢問題です。傍線部(3)「問題は他にあった。」と「ぼく」が言う理由説明として最もふさわしいものを1つ選びます。直後に「家に誰もいないんだけど」と「ぼく」が言うと、「ハル」は「だから何？ ああ、楽しみだなあ」と返しています。103行目では「ハルは全く気にしていない様子だ。気を遣うほうが馬鹿らしい。」とあり、また116行目に「女子を部屋に招くのは杏奈にマンガを貸す時くらいなので、さすがに緊張してしまう。」とあります。これらから「ぼく」は「女子」の「ハル」を、「家に誰もいない」中で呼ぶことに(男子として)気を遣っていたことがわかります。従って正解はアになります。イ「『ハル』を呼ぶことに以前から抵抗を感じていたため」、ウ「実際にはまだ部屋の準備ができていなかった」、エ「気を遣わなくてはならないとは思えず、…」、がそれぞれ誤りです。こちらもほとんどの答案が正解でした。
- 問四 三行記述問題です。傍線部(4)から、「ぼく」は「ハル」の映画に感動し、興奮しているのがわかります。「時間を忘れるほど魅力的な『ハル』の映画」、それは漫画家志望の「ぼく」からすれば「大好きなマンガを読んだときのような感動を覚える」「その映画を作った監督の『ハル』に深く尊敬の念を抱き、興奮している」といった内容をまとめます。しっかりとポイントをおさえた答案がほとんどで、全体的によく書いていました。一方で、『ハル』にマンガを見てもらえて興奮』『ハル』に映画化してもらえて興奮などのように、読み誤った答案もありました。「心が動いて感動した」などのような同語反復

表現は避けたいところです。

問五 選択肢問題です。傍線部(5)は「ハル」が真剣に「ぼく」の最新作と自信作の原稿を読んでいる様子を表していますが、その後どのような感想を「ハル」は持ったかの説明として最もふさわしいものを1つ選びます。正解はイです。ア「同一の作者だとはどうしても信じられなかった」、ウ「技術的な拙さは否めないと映画化を断らざるを得なかった」、エ「新作マンガには『ハル』の足りないところがある」、がそれぞれ誤りです。こちらもほとんどの答案が正解でした。

問六 3行記述問題です。傍線部(6)より、「ハル」の心情をまとめます。「力いっぱい拳を握りしめた」から、「ハル」の憤りや怒りや悔しさが読み取れます。「ハル」は自分の映画監督としての実力には自信をもっていますが、『春に君を想う』には自分に足りないところ(魅力)があると言う通り、まだ自分の力不足を認識しています。だから「ぼく」に「あんたは天才なんだろう？自分で好きに脚本を書いて、思うように映画を撮ればいいじゃないか！」と決めつけられたので、憤っているのです。163行目「…天才なんかじゃない」という「ハル」の台詞にも表れています。ほとんどの答案で「足りないところがある」「天才なんだから…と言われた」「憤る」の3つはよく書けていました。しかしながら「映画監督としての実力に自信はあるが」のポイントが書けていないために満点には至らない答案も多かったようです。

問七 語句問題です。「息がⅠ(ひどく緊張する)」は「つまる」、「息がⅡ(一つのことをずっと続ける様子)」は「ながい」、「息がⅢ(それ以上続けられなくなる)」は「きれる」、「息をⅣ(生き返る)」は「ふきかえす」、「息をⅤ(ほっとする、一休みする)」は「つく」、がそれぞれ入ります。全体的に正答率がよくなかったようです。慣用句はしっかりと意味をおさえて覚えておくようにしたいところです。

問八 (一) 傍線部B「ドタバタ」という語の本文での意味をア～エの中から1つ選びます。正解はウです。滑稽に暴れまわったりするコメディのことを「ドタバタ劇」と言います。(二)は擬音語・擬態語等の語句問題です。ア、イの誤答が多少ありました。ここは「コメディ」の意味からウ「滑稽な(ふざけていておかしいこと、笑いを誘うさま)」の含まれるウを選びます。Ⅰは「バチバチ」、Ⅱは「ぶらぶら」、Ⅲは「べたべた」、がそれぞれ入ります。ほとんどが正解でした。

問九 内容一致問題です。正解はウです。118行目～129行目の内容がそれに相当します。アは「信じることができず、議論は平行線のままだった」が誤りです。イは「小学生時代に描いたことに違和感をもっており」は心情的には性質の異なるものです。「…父親の家出と深く関係していると気づき始めたため、やはり断った」というのも事実と反します。よって誤りです。エは前半部は正しいのですが、後半部の『ハル』の鋭い観察力に感心し、尊敬の念を抱くようになった」は明らかに誤りです。多くの答案が正解でしたが、一部の答案で、ア、イの誤答が多少ありました。アもイも本文の事実を読み誤った選択肢です。